



市民病院

ハチちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

命のエンジニア 臨床工学室

病院で働く職員のなかで、臨床工学技士という職種をご存知でしょうか。医師や看護師などと違い、あまり聞き慣れないかもしれません。臨床工学技士は他の医療職種に比べ歴史が浅く、1987年にできた国家資格です。「りんしょうこうがくぎし」と呼ぶにくいこともあり、病院内ではME (Medical Engineer) やCE (Clinical Engineer) と呼ばれています。



医学と工学を兼ね備えた専門医療職として、人工呼吸器やAEDなどの病院で使用する様々な医療機器の保守点検管理を主な業務としています。また、体内に溜まった不要、あるいは有害な物質を除去する治療である血液浄化療法や、心臓の働きなどをみる心臓カテーテル検査にも携わっています。

医療技術の進歩に伴い、医療機器の高度化・複雑化が一層進むなか、医師や看護師、様々な医療スタッフと連携し、医療機器を通してチーム医療の一員として安全性と信頼性を確保する責務を担い、4人のスタッフで24時間365日サポートしています。



碧南の歴史へのいざない

問合せ
文化財課内市史資料
調査室 ☎(41)4566

No.58 驚塚城主 水野忠重 (1)

400年ほど前までは、現在の東中学校のある高台の北側は、衣ヶ浦に続く入り江になっていました。戦国時代の終わりごろ、この入り江を隔てた北の高台（尾城公園の北）に驚塚を治める水野忠重の砦がありました。

戦国時代の城や砦の数は2万とも3万とも推計されていますが、信長、秀吉の時代には3千ほどになっています。江戸時代になると、幕府は大名に居城のみとする命令を出し170にまで激減しました。

城は戦のためではなく、政治を行う場所となったのです。驚塚にあった城は、全国に2万、3万もあったころの、砦の一つといえます。

忠重は、戦国時代の1541年、水野忠政の末っ子として刈谷城で生まれました。忠政は知多半島北部の緒川に勢力を持ち、刈谷へ進出しています。まわりは織田、松平、今川と水野氏以上に大きな勢力に囲まれていました。水野忠政は、織田氏に協力しつつ、

「於大」をはじめ4人もの娘を松平側へ嫁がせて領地を守ろうとしました。松平清康に仕えていた驚塚の片山遵通にも忠政の娘「お亀」が嫁ぎました。

忠重が3歳のとき、父忠政が亡くなると、水野家は兄の信元が継ぎました。信元が織田氏への協力を鮮明にすると、松平氏へ嫁いでいた姉たちは刈谷へ戻されました。岡崎城主松平広忠に嫁いだ姉の「於大」は、子の竹千代(家康)と幼いころに離ればなれになっています。しかし、松平氏の家臣である小川(安城市)の石川清兼や驚塚の片山遵通に嫁いだ忠重の姉「お亀」が離縁されることはありませんでした。

